



新燃岳噴火 (H23.1.27)



平成 28 年度 歴史シンポジウム

災害と むきあう人々

平成 **29** 年 **1** 月 **22** 日 (日)

13:00 ~ 15:30

ウエルネス交流プラザ (ムジカホール)

入場無料
* 駐車場 3 時間まで無料

基調講演 **成尾英仁** (日本地質学会会員)

事例報告 **鎌田洋昭** (指宿市教育委員会)

中園剛史 (都城市教育委員会)

巡回企画展

「【緊急速報】都城の遺跡からみた災害の爪あと」
ウエルネス交流プラザ 1 階 茶霧茶霧ギャラリー
平成 29 年 1 月 18 日 (水) ~ 1 月 23 日 (月)

* 市民の皆様からご提供いただいた災害記録の写真等も展示

主催 都城市教育委員会
問合せ 都城市教育委員会事務局文化財課
0986-23-9547



液状化によって地中から吹き上がったシラス

縄文時代に起きた地震による液状化現象の痕 (山之口町)

- 12:40 開場
- 13:00 講演 成尾英仁 (日本地質学会会員)
- 事例報告 鎌田洋昭 (指宿市教育委員会)
- 事例報告 中園剛史 (都城市教育委員会)
- 14:25 シンポジウム
- 15:30 終了

南九州は日本でも有数の火山地帯であり、霧島火山群など活火山が密集しています。また、南海トラフ沿いで、M7クラスの大地震がくり返し発生する地域でもあります。このような南九州で発生した噴火や地震の痕跡は、各地の遺跡に堆積する地層中に様々な形で残され、日頃何気なく見ている風景の中に残されています。私たちが愛でる美しい景観ができるには、数年前の新燃岳噴火のような激しいできごとが繰り返されてきました。そのような自然の猛威を遺跡の地層から読み解く作業を通して、防災・減災をどう進めるかを考えます。



成尾英仁



鎌田洋昭

西暦874年3月25日未明 開聞岳が噴火しました。火口から噴き出した火山礫や火山灰は上空高く舞い上がり、偏西風によって指宿市南部にあるムラへ降り注ぎました。そして、ムラの家や畠、水田、道などが火山灰に埋もれてしまいました。災害の様子は、菅原道真らが編集した『日本三代実録』に記録されており、その記録に合致した災害遺跡が発見されています。

災害を受けたムラ人たちはどうなったのか？

最新の遺跡の調査成果からその実態に迫ります。



中園剛史

今回のシンポジウムでは、都城市内の発掘調査によって分かった過去の災害痕跡。特に地震痕跡である液状化現象跡について報告していきたいと思えます。

会場へのアクセス

*お車でお越しの方は、ウエルネス交流プラザ併設の駐車場を御利用下さい。
駐車場料金3時間まで無料となります。